

ULT通信

ちょっと近頃寒すぎやしませんか！2週続けて雪が降り、しばらく寒さは和らぎキウにありません。冬に読むのにぴったりな本、暖かく過ごすための本などなどをご紹介します。

2018.2.6号/vol.76 発行/ULT 図書館司書

冬の絵本・童話は名作揃い！

センター入試で話題のムーミンもぜひ◎



手編みニットはいかが？

『きょうの編みもの』ファッション的にもおしゃれです。モデルさんもかわいい♡



お風呂！温泉！銭湯！

温かいお湯で心も体もほどける～
小説『あたたかい水の出るところ』は温泉大好きJKのお話。じんわりします。



雑誌『暮しの手帖』

バックナンバーあります！

冬の号には、おでん・シチュー・なべ…、あったかおいしいレシピがいっぱい♪



雪の結晶を愛でる❄️

漫画『ドミトリーともきんす』には、雪の研究をした中谷宇吉郎博士が登場。



敢えて極寒の物語を！

寒い部屋で臨場感を高めてもよし、暖かい部屋で高みの見物気分もよし。



ULT NEWS

●図書委員+有志イベント開催！

なにやらおもしろそうなイベントを企画している模様…。詳しくは校内ポスターをチェック！

●浦学美術大賞展@ULT 開催中！

現在 ULT 内にて、アートコースの作品展が開催中です。

いろいろな場所に作品が飾られています。館内アート散策、楽しいですよ！

新着案内

1月の新着は92点です。一部抜粋で紹介します。

↓話題の漫画・漫画の続巻。

タイトル	著者	出版社
「死ぬくらいなら会社辞めれば」ができない理由(ワケ)	汐街コナ	あさ出版
信長の忍び 1~5	重野なおき	白泉社
はたらく細胞 03	清水茜	講談社
コウノドリ 20~21	鈴木木ユウ	講談社

↓教科書の勉強だけでは物足りないあなたへ。

タイトル	著者	出版社
黒海の歴史 ユーラシア地政学の要諦における文明世界	チャールズ・キング	明石書店
魔女と魔女狩り	ヴォルフガング・ベーリンガー	刀水書房
昆虫たちの世渡り術	海野和男	河出書房新社
なぜニワトリは毎日卵を産むのか：鳥と人間のうんちく文化学	森誠	こぶし書房
グリム童話と森：ドイツ環境意識を育んだ「森は私たちのもの」の伝統	森涼子	築地書館
ドライバーレス革命：自動運転車の普及で世界はどう変わるか？	ホッド・リブソン、メルバ・カーマン著	日経BP社
イップス スポーツ選手を悩ます謎の症状に挑む	石原心	大修館書店

↓進路の本（職業関係）ますます充実！

タイトル	著者	出版社
税理士の仕事図鑑	木村聡子	中央経済社
公認会計士の仕事図鑑	高橋知寿	中央経済社
こんなにおもしろい司法書士の仕事	山本浩司	中央経済社
こんなにおもしろい宅地建物取引士の仕事	山瀬和彦	中央経済社
看護の仕事がわかる本	菱沼典子	日本実業出版社
一生使える「接客サービスの基本」 お客様に選ばれる人がやっている	三上ナナエ	大和出版
ハンドメイド作家 売れっ子になる法則：自分のブランドを立ち上げる!	沼里良枝	ナツメ社

コラムde!!レ。

第76回は高橋が担当です。お題は「ラストの衝撃!」。オランダ人作家ティム・クラベールの『洞窟』を紹介します。



舞台は架空の国ラタナキリ。麻薬の運び屋（物騒!）としてこの国に足を踏み入れた主人公のエイホン。地質学者として超平凡な暮らしを送る彼が、なぜ運び屋になったのか。そのきっかけは幼い頃にサマーキャンプで出会った友人アクセル。時に乱暴で、時に純粋なアクセルの姿に、エイホンははじめ、周囲の人間はなぜか惹きつけられていきます。しかし、大人になるにつれて裏の世界にどっぷり染まっていくアクセル。距離を置きつつも関係を断ち切ることはできないエイホン。登場人物たちの人生は、14歳の夏に大きな分岐点を迎えていたのです。

舞台は再びラタナキリへ。運び屋として街をさまようエイホンは、ある女性と出会います。彼女もエイホンと同じく、やむを得ない事情から報酬目当てに運び屋となり、この国を訪れていました。相手の素性に深入りはしないと決めるエイホンですが、自分たちに似た境遇を感じます。彼らは運び屋としての役目を果たし、報酬を受け取ることができるのか。そして、それは新たな人生につながっていくのか…という話です。

後になってから「あのときこうしていれば良かった」と考えることはありませんか？今よりも良くなるか、悪くなるかは置いておいて、違った人生の選択肢もあったかもしれない。この物語を読むと、〈人生のもう一方の道〉について考えさせられます。読後、作中の様々なシーンが思い浮かび、もう一度最初から読みたくなるはず。エイホンたちの行き着いた先が、ハッピーエンドかバッドエンドかは読み手の受け取り方次第です。抜け出せない余韻に浸ってください。こんなじんわりとした気持ちにさせてくれる「ラストの衝撃」もありでしょう。

次回のULT通信は新年度発行です。コラムのテーマは、はじまりの時期にふさわしく「最初の一步」にします。